

# 平成 20 年度 学校法人 文化学園 事業報告書

## 目次

### 1 法人の概要

### 2 平成 20 年度事業報告書

< 教育部門 >	文化女子大学 文化女子大学短期大学部 文化ファッション大学院大学 文化女子大学室蘭短期大学 文化女子大学附属すみれ幼稚園 文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園 文化服装学院 専門学校 文化服装学院 広島校 文化外国語専門学校
< 附属機関 >	図書館 服飾博物館 ファッションリソースセンター 国際交流センター 知財センター アカデミックアーカイブセンター
< 共同研究拠点 >	文化ファッション研究機構
< 収益部門 >	文化出版局 文化事業局
< 学園本部 >	学園総務本部 学園経理本部 監査室 開発準備室

### 3 財務の概要

# 1 法人の概要

学校法人 文化学園 大臣認可年月日 昭和 26 年 3 月 5 日  
〒151-8521 東京都渋谷区代々木 3 丁目 22 番 1 号  
03-3299-2111

## 設置する学校・学部・学科等（平成 20 年 5 月 1 日現在）

### 文化女子大学 大学院

(東京都渋谷区)	生活環境学研究科博士後期課程	H 1 年度開設
	生活環境学研究科博士前期課程	S 47 年度開設
(東京都小平市)	生活環境学研究科修士課程	H 10 年度開設
	国際文化研究科修士課程	H 10 年度開設

### 文化女子大学

(東京都渋谷区)	服装学部	服装造形学科	H 12 年度開設
		服装社会学科	H 12 年度開設
(東京都小平市)	造形学部	生活造形学科	H 12 年度開設
		住環境学科	H 12 年度開設
	現代文化学部	国際文化学科	H 3 年度開設
		健康心理学科	H 12 年度開設
		国際ファッション学科	H 16 年度開設

### 文化ファッション大学院大学

(東京都渋谷区)	ファッションビジネス研究科	H 18 年度開設
----------	---------------	-----------

### 文化女子大学短期大学部

(東京都渋谷区)	服装学科	S 25 年度開設
	生活造形学科	S 40 年度開設

### 文化女子大学室蘭短期大学

(北海道室蘭市)	保育科	S 44 年度開設 (募集停止)
----------	-----	---------------------

### 文化女子大学附属すみれ幼稚園

(東京都多摩市)		S 47 年度開設
----------	--	-----------

### 文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園

(北海道室蘭市)		S 51 年度開設
----------	--	-----------

### 文化服装学院

(東京都渋谷区)	服飾専門課程	S 51 年度開設
	ファッション工科専門課程	S 55 年度開設
	ファッション流通専門課程	S 55 年度開設
	ファッション工芸専門課程	S 58 年度開設
	部服飾専門課程	S 51 年度開設

### 文化外国語専門学校

(東京都渋谷区)	語学専門課程	S 55 年度開設
----------	--------	-----------

### 専門学校文化服装学院広島校

(広島県広島市)	家政高等課程	H 20 年度開設
----------	--------	-----------

## 設置する学校・学部・学科の入学定員、学生数（平成20年5月1日現在）

設置する学校・学部・学科	入学定員	収容定員	現員
文化女子大学 大学院	34	70	69
文化女子大学 合計	920	3780	4002
服装学部	500	1700	2044
造形学部	260	1180	1175
現代文化学部	160	900	783
文化ファッション大学院大学	80	160	97
文化女子大学短期大学部（専攻科含む）	260	700	683
文化女子大学室蘭短期大学	-	60	35
文化女子大学附属すみれ幼稚園	105	300	210
文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園	35	105	57
文化服装学院 合計	2320	5080	4963
服飾専門課程	800	1320	1316
ファッション工科専門課程	470	1460	1558
ファッション流通専門課程	750	1400	1134
ファッション工芸専門課程	140	420	288
部服飾専門課程	160	480	667
文化外国語専門学校 語学専門課程	420	600	298
専門学校文化服装学院広島校 家政専門課程	85	85	59
合計	4259	10940	10473

\*文化外国語専門学校は10月期入学があるため、10月の期首在籍とした。

## 教職員の概要

設置する学校	専任教員	専任職員
法人本部	0	44
文化女子大学	174	107
文化ファッション大学院大学	18	6
文化女子大学短期大学部	34	21
文化女子大学室蘭短期大学	5	9
文化女子大学附属すみれ幼稚園	13	2
文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園	4	0
文化服装学院	211	56
文化外国語専門学校	18	15
専門学校文化服装学院広島校	4	2
合計	481	262

## 役員の概要（平成 21 年 3 月末現在）

理事長	大沼 淳	文化女子大学学長、文化ファッション大学院大学学長 文化服装学院学院長、文化服装学院広島校校長
常任理事	大沼 聡	文化服装学院副学院長、文化外国語専門学校校長
理事	岸原 芳人	学園総務本部長、文化事業局長
理事	鈴木 昭伯	文化出版局長
理事	濱田 勝宏	文化女子大学副学長、教授
理事	佐川 秀夫	学園経理本部長
理事	山本 順二	文化女子大学事務局長
監事	閨間 幸雄	
監事	永野 義一	弁護士

## 評議員の概要（平成 21 年 3 月末現在）

### 1号評議員（理事会選任）

岸原 芳人	理事、学園総務本部長、文化事業局長
鈴木 昭伯	理事、文化出版局長
濱田 勝宏	理事、文化女子大学副学長、教授
佐川 秀夫	理事、学園経理本部長
澤田 知子	文化女子大学造形学部長、教授
原 敏夫	学園総務本部次長、総務部長

### 1号評議員（職員推薦）

大平 光子	文化女子大学教授
江戸 克栄	文化女子大学准教授
坂場 春美	文化服装学院教授
平柳 直子	文化服装学院教授
品田 陽子	文化女子大学教務部長
小林 哲夫	学園総務本部人事厚生部長
溝口 恒宏	文化出版局総務部長
関口 淑江	文化事業局購買部副部長

### 2号評議員（卒業生）

伊藤 綾子	紫友会会長 ミネルバ工房社長
池田 和子	文化女子大学教授
小杉 早苗	文化ファッション大学院大学教授
石井 雅子	文化服装学院教授

### 3号評議員（学識経験者）

野原 明	文化杉並学園文化女子大学附属杉並中学校・高等学校 校長
児島 則夫	文化長野学園文化女子大学附属長野高等学校 校長
田村 照子	文化女子大学教授、文化・衣環境学研究所長
荒井 健二郎	文化女子大学現代文化学部長、教授

## 平成20年度 文化学園の運営方針

ここ数年でわが国の高等教育機関を取り巻く事情は大きな変化をとげ、少子化の中、平成20年には18歳人口が120万人台となり、今後も徐々に減少していく。この18歳人口の減少による大きな変革は、高等教育機関への入学者減少だけの影響ではなく、今後の日本の未来に向けた人材育成が問われるものとなっている。これらの変化は国際的な観点も大きく広げることになり、社会に対する役割も変わってくる。高等教育機関は国際社会の中で日本の役割を考え、21世紀において日本が必要とする人材育成に向けての養成機関として、その役割を果たしていかなばならない。

文化学園各校、各部門は各々の役割を認識し、その特色、特性をさらに発展させ、国内外においての存在意義を高めていかなばならない。

特に当学園は85年の歴史の中で日本における服飾教育の担い手であった。その中心的存在として、今後も研究、開発に力を注ぎながら、国際社会の中で活躍できる教育機関となり、情報発信の拠点としてその役割を果たしていかなばならない。

学園ではグローバル化の推進やイノベーションの推進、クリエイションの実現のための教育を柱に、学園各部門の要素と知恵を融合し、教育機関として常に新しい物を創造し得る人材育成を目指すことを目標として、平成20年度の事業計画を策定し、実施した。

## 平成20年度 文化学園の事業報告

### 1 学園各校は各々の役割の中で研究・開発に力を注ぎ、未来に向けてのカリキュラムの変更や教育内容のポリシー構築に努める。

各校は学科の編成内容の検討や改定、及びカリキュラムの変更等を行った。教員の研究、研修としてFD、SD研修を実施し、その充実を図りながら、個性ある教育の構築を目指した。また、アドミッションポリシーとストラテジーの策定を行い、就職先となるファッション産業界との連携等を行った。

附属機関を始めとする学園の各部署は、各校の教育支援のために各々の事業計画を目標にし、その成果を上げている。

### 2 コンプライアンスの強化

学園のコンプライアンスを強化するため、理事長直轄の機関として監査室を設け、内部監査を行いながら監事、公認会計士との連携し、法令順守という社会体制における認識の中で学園の信用性を維持することを目的として業務を行った。

各校の学生募集費、学納金処理について調査及び報告、及び科学研究費、補助金等の監査を行う。また、学園全体を対象とした監事の監査補助を行う。

### 3 グローバリゼーションへ向けての活動

- 1) 「日仏交流150周年記念展」として、フランス パリ市のバガテル公園内のトリアノン館において5月から7月にかけて「バガテルきもの展 - 花・草・木の文様 - 」展を開催し、10万人余の入場者を得て、好評を博した。また、服飾博物館においても合わせて記念展を開催し、「フランスモード18世紀から現代」としてロココ時代の宮廷衣装から現代のデザイナー作品を展示する。
- 2) 「日本ウズベキスタン協会」の協力を得て、文化女子大学のファッションショーにおいて服飾文化交流を行った。ウズベキスタンの方や大使館関係者を迎えて、国の紹介を行う。
- 3) 文化出版局で英語版のファッション大系の教科書が発刊され、既にある中国語、韓国語教科書を含め、これにより文化学園の教育を世界に公開できるようになった。
- 4) 文化ファッション大学院大学が「ブラジル日本人移民100年祭に招聘され、講演と服飾博物館の資料展示を行う。
- 5) I F F T I〔国際ファッション工科大学連盟〕の年次総会において、本学園の常任理事が会長に選出され、その重責を担うこととなった。世界18カ国、34校が加盟している。
- 6) その他、米国、英国、フランス、中国、韓国、台湾等の各国提携校とのコラボレーション、学術・文化的交流を推進し、特別講師の招聘や留学生研修の交流等を行った。

### 4 服飾文化研究の拠点校として「文化ファッション研究機構」の設置

- 1) 文化学園は文部科学省から「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備」として指定を受け、服飾文化研究の拠点として「文化ファッション研究機構」を設置し、専任教授等を配置した。
- 2) 研究機構に共同研究のための設備、及び研究リソースを整備するとともに、10月に服飾文化共同研究拠点キックオフ・シンポジウム「服飾文化研究のグローバルな展開に向けて」を開催し、本格的な活動に入った。
- 3) 共同研究の推進については、重点的に進めるべきプロジェクト研究として、“「きもの」文化に関する研究”をテーマに挙げ、特にテーマを定めない一般共同研究としては、服飾文化にかかわる人文学的研究、社会科学的研究、自然科学的・技術的研究を分野として研究課題公募を行った。  
応募課題40件からプロジェクト研究を3件採択。  
応募課題40件から一般共同研究を11件採択。

## 5 ファッション産業界におけるインキュベーション機能の整備

渋谷区との連携の中で若手デザイナーの起業支援などを手がけていく事業「渋谷ファッションデザインフォーラム〔仮称〕」が進行しており、これに協力、支援すべく申し出を行っている。これが文化学園に決まればその環境を整備していく。

## 6 文化服装学院広島校を開校

平成20年4月、文化服装学院初の直営校として、また、中・四国における拠点校として広島に開校した。2年制として家政専門課程にアパレルデザイン科〔入学定員50名〕とトータルファッション科〔入学定員35名〕を設置。新入生59名。アパレルデザイン科38名、トータルファッション科21名で授業を開始する。

広島校の専任教員の授業だけではなく、東京本校との連携で出張授業、実習、特別講義が行われ、また双方向通信システムにより本校からの遠隔授業も行う。また、東京本校での夏期集中授業もある。

## 7 文化学園アカデミックアーカイブセンターの設置

平成20年12月に文化学園の附属機関として新設された。アカデミックアーカイブセンターは、“AFP-World Academic Archive”(AFPオンラインデータベース・アカデミック版)の日本国内における、AFP通信の世界的なニュースアーカイブを、日本国内の教育機関に提供するオンラインデータベースサービスとして、学校法人文化学園とフランスの通信社AFP(Agence France-Presse)との共同プロジェクトとして行う。利用サービスの開始日を2009年6月1日予定として対象ユーザーやその利用方法の検討を重ねた。

## 8 施設の購入

小平キャンパス隣地の小平第二国際学生会館を購入し、文化女子大学別科の留学生が使用することとした。また、韓国ソウル市に事務所を購入し、韓国における留学生募集等の広報活動や提携校との学術交流のための連携、卒業生会の対応等を行う。

## 9 文化女子大学室蘭短期大学の閉校

室蘭市の人口減少が続き、この地における短期大学教育の存続は難しいとして学生の募集を停止しており、平成20年度に在籍する保育科の学生が卒業するのを待って閉校を予定し、その対応を行っていた。平成21年3月をもって在校生全員が卒業したため、室蘭市での40年にわたる短期大学教育に終止符を打ち、閉校した。

附属の幼稚園は文化女子大学附属幼稚園と園名を変更して、保育を継続する。

## 部門別事業報告

### 教育部門

#### <文化女子大学・文化女子大学短期大学部>

##### 1 平成20年度重点計画の実施

###### 1) 文化女子大学留学生別科の新設

平成20年9月より開校し、18名が入学した。その内15名が平成21年4月より文化服装学院に進学予定。

###### 2) 私立大学等経常費補助金特別補助の継続取り組み

平成20年度継続取組であった、大学における自律的学習意欲を啓発する導入プログラムとしてのフレッシュマンキャンプや、教育の成果を海外で問う実践的海外研修「ファッションショー」等の11項目、短期大学部におけるフレッシュマンキャンプ、ショップ（演習用店舗）教室を活用したファッションビジネスに関する実践教育等の8項目について取り組み、成果をあげることができた。

###### 3) 文化ファッション研究機構の運営

文部科学省から「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備」として「服飾文化研究拠点」の指定を受け、文化・服装学総合研究所を「文化ファッション研究機構」に改組し、その運営にあたることとした。服飾文化研究拠点には、外部有識者を含む運営委員会の審議に基づき、キックオフシンポジウムの開催、「服飾文化に関する共同研究」の公募要領の策定、研究課題の募集・選定等を行った。

###### 4) 平成20年度からの定員変更後の学部学科構成等に係る将来構想の推進

服装学部の服装造形学科と服装社会学科の定員変更にとともに、定員超過率の是正に努めるとともに、教員組織・教育環境の整備のための手直しを行った。

現代文化学部国際文化学科のコース編成を一部変更するとともに、健康心理学科の学生募集を停止し、学科再編のための検討を開始した。

##### 2 教育、授業関連、学科編成 等について

1) 大学院の新コースを文化ファッション大学院大学、信州大学と連携して設置するための準備を行い、計画を確認するとともに、平成21年度に具体化へ向けてさらに検討することとした。

###### 2) キャリア形成教育の充実

従来のフレッシュマンキャンプをキャリア形成教育科目の「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」として開講して2年目となった。卒業後のキャリア形成にふさわしいものとなるように、内容も再度見直して実施した。

短期大学部では2年生を対象にキャリア形成のため「キャリアデザイン（展開

編) - コースセミナー - 」を開講し、従来のコース研修をより発展させた内容として実施。

3) 「アパレル縫製工学実習室」を新設

技術教育の授業運営が円滑なものとし、また、被服造形実習関連の補習にもその機能を発揮している。

4) 造形学部における産学連携の促進

造形学部の産学連携として、「造形学部産学連携協議会」の関係者を卒業研究展等のイベントへ招待し、インターンシップ受け入れの協力要請を行うなど、連携強化を図った。

5) インターンシップの拡大

専門職体験の受け入れ企業の開拓として新規企業を16社開拓し、受け入れ枠を増数した。また、受け入れ企業に対し、専門職での受け入れを重ねて要請したところ、新たに6社での専門職体験が可能となった。

3 教職員の研究、研修について

1) F D・S D研修の実施

4月に全学F D・S D研修会を開催した。講演の他、分科会では平成19年度に作成された研修会報告書に基づき、内容について討議、改善策の検討を行った。「学生によるカリキュラム・授業改善のためのアンケート」を全学生対象に実施し、学科ごとにカリキュラム改善を目的として「総合教養」「外国語」「専門科目」等に種別を分けた設問を設け、アンケートを実施し、その結果についてデータ分析を行った。結果は学部学科ごとに分析し、授業・カリキュラム改善につながる方策を検討する。

2) 共同研究活動の推進

「服飾文化共同研究拠点」の指定にともない、「文化ファッション研究機構」を中心として共同研究が促進されることとなった。特に本学教員を中心とするプロジェクト研究、共同研究課題が公募によって選定された。

文化・住環境学研究所の活動を通じて共同研究を支援し、新たな共同研究が複数スタートした。今後、「学内研究会(造形学部の部)」での発表につなげ、幅広く共同研究を促進する。

4 教育支援プログラム等の申請について

1) 「質の高い大学教育推進プログラム」への申請の検討

短期大学部服装学科

「ファッションブランドビジネスモデルの構築」が採択され、1月にはG Pフォーラムにも参加。「公開審査会」においてビジネスモデルの構築に関するプレゼンテーションを行うなど、所期の目標を達成することができ、3カ年計画の初年度事業を計画通り完了することができた。

## 5 国際交流について

- 1) 学生の研修と交流を充実させるため、海外提携校でコラボレーション科目を実施した。平成 20 年度は米国 ベルビューコミュニティーカレッジ 18 名、台湾 実践大学（高雄キャンパス）24 名、韓国 青江文化産業大学 15 名が参加し、各々の地域の文化研修、語学研修を行うとともに提携校の在学生とも交流をはかり、大きな成果をあげた。
- 2) 韓国の啓明大学校主催「韓日中国際ファッションショー」に教員 2 名を派遣し、平成 20 年度服装学部ファッションショー作品を同大学のモデルによってショー構成して発表、好評を博した。
- 3) 「日本ウズベキスタン協会」の協力を得て、服飾文化交流のイベントを開催。第 23 回服装学部ファッションショーにウズベキスタン協会からアトラス織りの布地の提供を受け、シーンを構成した。また、服飾博物館所蔵の民族服飾を「シルクロードの彩り 中央アジアの民族衣装」として展示する一方、シンポジウム「中央アジアの魅力」を開催し、盛況裡に終了した。

## 6 学生募集、広報活動について

- 1) 文化女子大学ホームページのリニューアルを行い、さらに大学紹介ビデオを放映。
- 2) 学生募集活動の強化
  - 入試日程（願書受付期間等）の改善
  - 入試日程において願書受付期間の延長、合否発表日の繰上げを行う。
  - 卒業生子女の特別推薦制度を実施した。
  - 一般入学試験会場を拡大し、地方会場（文化服装学院広島校）での入試の実施。
- 3) 附属長野高等学校との遠隔地授業の試行
  - 7 月開催の進学フェスタ（公開授業）にあわせて、附属長野高校との間で試験放送を実施して好評を得た。平成 21 年度の遠隔授業開始に向けて、さらに協議を進めた。
- 4) 附属杉並高等学校において高大連携授業を開講し、そのうち「学校指定科目」を取得した入学生に対して「高大連携科目」（2 単位）を自由選択科目または共通選択科目として認定する。平成 20 年度入学生からこの規程を適用した。

## 7 教育環境整備について

- 1) 平成 20 年度から本格稼働する学生ポータルサイトの有効利用を図る。
  - 事務局からの諸連絡（授業日程、定期試験関連事項の連絡、その他行事日程等）をポータルサイトにアップし、学生の有効利用をはかった。
- 2) 小平第二学生会館を 7 月に取得し、主に別科の留学生が使用する。

## 8 企業とのコラボレーション

- 1) 店頭ディスプレイのデザイン募集
  - ロッテ商事(株)より新製品のチョコレートを販売するにあたり、店頭のディスプレ

イのデザイン作成依頼があり、文化服装学院と共に学生の応募を募り、大学の学生は優秀賞として2作品が選定された。

## 2) スポーツウエアロゴデザイン募集

(株)スポーツよりボウリングウェアのロゴデザイン作成依頼が文化女子大学の学生に対してあり、74作品の応募があった。そのうち2作品が最優秀賞となり、2009年夏にはナイキ社、アディダス社のボウリングウェアに各々採用予定となった。

## <文化ファッション大学院大学>

### 1 教育、授業関連、学科編成等について

#### 1) 教育、授業関連

ファッションクリエイション専攻では、国内のトップレベルの縫製技術者・著名なファッションデザイナー・ジャーナリスト・バイヤーなど、ファッションマネジメント専攻では、アパレル企業の経営者・マーケティング担当者・システム担当者・経営コンサルタント・ファッションデザイナーなどとして活躍される方を招いて特別講義を行い、また、ファッションビジネスの現場を理解するために企業、工場、展示会等の見学を実施した。

平成21年度から展開する授業科目の追加・削除・名称変更を行った。

#### 2) 専攻・コースの改編

BFGUはファッションビジネス研究科にファッションクリエイション専攻とファッションマネジメント専攻の2つの専攻を設置している。このファッションマネジメント専攻はファッション経営管理コースとファッション技術経営コースの2コースに分かれているが、ファッション技術経営コースをファッションクリエイション専攻のファッションテクノロジーコースに統合させ、平成21年度生の募集からこれまでのファッション技術経営コース廃止し、この授業科目はファッションテクノロジーコースの選択科目として設定した。在校生に対しては、科目の選択に際して希望する進路に沿った履修指導を行なった。

### 2 教職員の研究、研修

1) 開学時に設置した「ファカルティディベロップメント(FD)委員会」を定期的  
に開催し、必要に応じて研修会を行っている。

2) FD活動の一環として、ファッションマネジメント専攻の教員は、山形ニット産地と米沢織物産地を見学し、今後の繊維産地とファッションビジネスを研究し、  
教員間の研究情報の交換を行った。

3) ファッションクリエイション専攻の教員は、コース別研修においてはコースの特色、  
今後の方向性およびカリキュラム及び教授法等について検討した。

4) 専攻全体の研修ではBFGU FW(ファッションウィーク)についてと、各コースの現状、両専攻共通科目の導入および内容検討、専門職大学院認証評価などについて検討、あらためて現状と今後の課題等を把握することができた。

### 3 中・長期計画

1) 平成22年度に行う(財)日本高等教育評価機構による第三者評価への対応を検討した。

2) 社会人を対象にした夜間、土曜・日曜に授業を実施するためのカリキュラムの構築を検討。また、英語のみで授業を展開するコースの新設を検討した。

### 5 コラボレーション

#### 企業や他大学等との連携

プロフェッショナルバイヤー向け展示会(rooms 開催)に、ファッションデザインコース修了年次生6名が参加した。同時期に新宿ルミネエスト館に於いては、直接の消費者に向けた展示を、修了年次生が参加し好評を得た。

ファッションテクノロジーコースの2教授が、岐阜県産業技術センター、名城大学とブラザー工業(株)等の企業により、「縫製条件データベースの実用化研究」を行ない、より興味深いデータの構築を進めることができた。

経済産業省委託事業の「地域資源活用型研究開発事業」である八王子市の(株)みやしんと共同研究について本年度も成果が上がり、経済産業省からも「概ね計画に進捗し、技術開発成果もほぼ目標どおりに示された。」との評価となり、成果実例集に他校の研究とともに掲載された。

### 6 国際交流

#### 1) ブラジル日本人移民100年祭からの招聘

6月に行われたブラジルサンパウロ市主催の「日本人移民100年祭」における「サンパウロファッションウィーク」に、本学ファッションビジネス研究科長の教授と助教が招かれ、講演を行うと共に、文化学園服飾博物館所蔵の着物やリソースセンターコレクションの著名デザイナーの作品、本学学生の修了作品等数十点を展示し、文化学園挙げての協力体制に、市側から大変感謝された。また、滞在中に現地の企業及びサンパウロ市とリオデジャネイロ市のファッション系大学4校の訪問等を行った。

#### 2) オーストリア ウィーン市 モーデシューレ校からの招聘

12月に本学ファッションビジネス研究科長の教授がモーデシューレ校主催のイベントに招かれ、コンクール出品作の批評や審査を行った。また、300名の学生にファッショントレンドについて講演をおこない、2年生・3年生を対象にワークショップ(授業)を実施、その後、現地のミュールバウア等を含めた企業及び新進デザイナーのアトリエ訪問等を行い、交流を図った。

### 7 学生募集、広報活動

### 1) ホームページの充実と入学案内の製作

ホームページでは、本学の概要だけではなく研究科・教員・施設等を紹介し、また教員や学生へのインタビュー動画をアップして理解しやすいサイトを構築した。入学案内も同様に教員や学生へのインタビュー記事を掲載し、本学の授業内容等をわかりやすくした。広告のサイトについては、媒体企業5社と契約し、すべて本学のホームページにリンクさせることで、広く一般に認知させることに重点を置いた。

### 2) 学外向けの入試説明会

昨年同様7月と12月、2回実施した。特にマネジメント専攻への応募者獲得のために、首都圏大学の経営学部、商学部に対してポスターと説明会案内を発送し学生の来場を促した。併せて学内にも各校それぞれに説明会を実施した。

### 3) 広報活動の効果

約400名から資料請求があり、平成21年度の入学者数は72名(前年比プラス22名)となった。

## 8 就職指導

修了年次の学生のために、企業訪問・就職先開拓を強化し、インターンシップ等の学生が希望する研修企業への働きかけも、専任教員や客員教授の協力を得て進めている。併せて、就職資料及び就職相談の充実にも努めた。

## 9 文化ファッション大学院大学ファッションウィーク実施

初めての本学全体のイベントを実施し、「ORIGINS IN JAPAN クリエイション、グローバルゼーション、イノベーション」をテーマに、ファッション界の人々が対話・議論をし、また問題提起をすることで次代のファッションビジネスの方向性を探るため、パネリストによるシンポジウム、学生によるファッションショーや研究発表を行なった。学生達は自身の研究成果を数多くの来場者の前で発表できたことや企業の現場の人との意見交換ができ、有意義なイベントとなった。各メディア上でのジャーナリストの講評も、高い評価を得ることができ、次につながる内容になった。

## <文化女子大学室蘭短期大学>

平成20年度で在籍する保育科2年生の卒業をもって閉校を予定しており、室蘭市における40年間にわたる短期大学教育を閉めるにあたり、その対応を行った。

平成21年3月に保育科の在校生34名が全員卒業し、平成20年度をもって閉校した。

4月11日には「思い出を語る会」として感謝会を行い、卒業生、学校関係者、室蘭市関係者の300名余が出席する。40年史「写真でつづる40年のあゆみ」を配布。

## <文化女子大学附属すみれ幼稚園>

- 1 施設関係について  
園児の安全を考慮し、園庭、遊具の点検・整備を行う。
- 2 保育時間の延長  
週2回、30分の延長をした。次年度より全日延長、9:00 - 14:00 とする。
- 3 未就園児(2歳、3歳児)教室を開設。10:00 - 12:00
  - 1) 週1回クラス、3回。1回定員12名、計36名。週2回クラス、1回。定員12名
  - 2) 母親と一緒に過ごす慣れ保育。42名を募集し、実施した。
- 4 園児募集について
  - 1) 平成20年度は、年少70名、年中15名を目標に募集。結果、年少37名、年中16名、年長1名合計54名の新規入園数に留まり、在園児と合わせ210名となった。内訳は、年少37名、年中84名、年長89名となる。
  - 2) ホームページの改定  
現在のホームページを全面的に見直し、新たなホームページの作成を行った。
  - 3) 園バスルートの新規開発園児のいる地区にルートを設定し、園児募集に努めた。
- 5 給食導入。  
平成20年度は準備期間とし、給食の試食会や意見交換を行った。
- 6 預かり保育の時間延長  
保育時間の延長に合わせて週2日、預かり保育時間を、14:00-17:00とした。次年度より、全日14:00 - 17:00とする。

## <文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園>

- 1 園の運営  
平成20年度は3歳児クラス12名、4歳児クラス15名、5歳児クラス27名の園児54名で運営を行う。
- 2 園名変更と園児募集  
平成20年度をもって文化女子大学室蘭短期大学が閉校するため、平成21年度から園名を文化女子大学附属幼稚園と変更するとして、園児募集を行った。21年度として3歳児クラス18名、4歳児クラス27名、5歳児クラス17名の62名となる。内、新入園児は34名となる。

## <文化服装学院>

### 1 教育、授業関連、学科編成

- 1) ファッション流通専門課程ファッション流通専攻科をファッションディレクター専攻(既存)、ファッションメディア専攻(新規)、ストアマネジメント専攻(新規)の三専攻とした。特に初めての専攻科となったファッションメディア専攻では、二年次を服飾課程、工科課程、流通課程の各課程から進級してきた結果、技術面は初心者レベルからのスタートであったが、知識面では情報量が多く豊富な話題を捉えることができた。
- 2) 新科あるいは新コースの設置、カリキュラムにおける「関連学科目」「部服装科」の見直しはワーキンググループ2008に提議されており、平成21年度において引き続き検討することにした。
- 3) 設備、備品に関する整備は計画どおりに進行し、特に今年度は大型裁断機を導入した。

### 2 教職員の研究、研修

技術教育の専門化・高度化に対応するために、前年度に引き続き教職員対象の研修を行なった。また、これからのファッション教育をどのように見据えるか、7月よりファッション教育研究会を9回実施した。世界政治経済の状況解説から香水の世界、販売のプロフェッショナルの条件、マーチャンダイジングの変遷と現実と幅広く学ぶよう企画した。教員自身の意識向上に加え、特別講師依頼の源となった。

### 3 コラボレーション

- 1) トリンプインターナショナル社主催の「世界の下着デザインコンテスト」に本学院が応募協力し、北京における世界大会では本学院生が最高位のグランプリを受賞した。
- 2) 問屋街活性化委員会、フレックスジャパン、オガワテキスタイル、松尾とのコラボレーションは5年以上となり、ますます各社との協力体制が強化されている。

### 4 学生募集、広報活動、留学生の対応

#### 1) 学生募集および広報等関連

平成20年度の学生応募は1割強の減数となった。案内書請求数、ファッションフェスティバルの参加者数、学校見学者数等と比較すると、入学者数の減少率が大きかった。

ファッション工芸専門課程の工芸関連コースのアピールを強化し、その1つとして、学院ロビーに在校生の作品を常設展示するコーナーを設け、見学者に課程への理解を求め、応募につなげることができた。

#### 2) 留学生関連

留学生はここ数年増加傾向にあり、21年度の期首在籍では600名を越えること

になる。授業の理解力を高める意味でも、一段高い日本語能力の質を求め、次年度の入試ではリスニングテストを従来の試験に加えるなど、対応を検討した。東華大学からの専攻科への編入の受け入れについても、再検討を行った。

3月に学園4校合同イベントとしてソウルにおいて文化服装学院韓国留学生会のファッションショーや学校案内を含めロッテワールドホテルにおいて開催し、高校生・大学生を中心に1,000名余が来場した。

## 5 就職対応

1) 年度のスタートは順調に推移して、よい成果を期待していたが、9月から経済破綻によって事態は一転し、大変厳しいものとなった。採用取消はほとんどなかったが、後半からの採用手控えの影響もあり、昨年度より若干下回ってしまった。

## 6 教育環境整備

### 1) 学生生活等関連

カウンセリングが必要な学生が増えており、それに対応し、補強を含めて他校との協力体制を検討。次年度でも検討する。

不況が原因で学費の延納や滞納が増加している。奨学金の充実や学費の問題にどう対処するかを引き続き検討していく。

## 7 その他

### 1) 生涯学習に関する事業

プロ・社会人向けのコースをスタートした。しかし秋期からの講座が折からの大不況にあって、一般者対象の講座は、大変厳しいものとなった。

## <文化服装学院広島校>

### 1 開校

1) 平成20年4月、文化服装学院初の直営校として、また、西日本における拠点校として位置づけて広島に開校した。2年制として家政専門課程にアパレルデザイン科〔入学定員50名〕とトータルファッション科〔入学定員35名〕を設置。新入生59名。アパレルデザイン科38名、トータルファッション科21名で授業を開始する。

### 2 広島校の授業関連

1) 広島校の専任教員の授業だけではなく、本校の教員が出張授業、実習、特別講義が行われ、また双方向通信システムにより本校からの遠隔授業も行っている。また、東京本校での夏期集中授業もある。当初は1年次だけだが、次年度に向けての検討を重ね、教員の異動もおこなった。また、3年次として本校への編入・進学ができるので、学生への対応も行っている。

### 3 学生募集について

1) 地域ガイダンス、学校訪問も頻度高く行っているが、最近の高校生のコミュニケーションツールとして携帯電話の占めるウエートは大きくなってきておりPC、携帯電話、雑誌、ガイダンスなどを有機的にミックスして活用している。

広島校のホームページでは、広島校ニュースとして地域別相談会や体験入学、各種イベントなどを紹介している。

2) 広島そごうとのコラボレーションを通じ、広報の面として校名のPR効果がなされている。本年度はそごう売り場における在学生のTシャツデザインコンテストや9月の広島における本校の学生による「アクセサリーとコスチュームによる協奏」と題したファッションショーにも協力があり、多くの高校生等の来場があった。

3) 平成20年度の募集結果は66人となった。後半の経済不況の影響が地方都市の募集活動に大きく影響し、前年度の59名を上回ることはできたが定員までには達しなかった。

### 4 就職について

次年度より就職活動がスタートするため、本校の就職指導室の連携と中国地方のファッション関連の企業、ショップを開拓するための準備を行っている。1期生、2期生の就職状況が今後の学生募集にもつながっていくため、インターンシップ等も行いながら就職対応の強化を図っていく。

## <文化外国語専門学校>

### 1 国際交流

日本語教師養成科の校友会を今後も発展させるために、台湾支部で総会及び親睦会を開催した。台湾における日本語教育の現状、就職状況、今後のカリキュラム変更の参考意見など、大変意義のある校友会総会となった。

### 2 学生募集・広報活動

1) 台湾・韓国・タイ・上海の国際交流センター海外事務所と連携して積極的な留学生募集活動を行った。

2) 特に韓国では、時事日本語学院の協力を得て、学院の日本語学習を対象とした「国際通訳翻訳科」の日本留学説明会を開催できた。

### 3 就職対応

留学生の就職・進学指導を目的とした進路指導室を開設し、担当者を常駐させるとともに進路指導委員会・クラス担任との連携により、留学生への進路指導を充実させることができた。

### 4 教育環境整備

語学専門課程の教育環境整備の一環として、新たに CALL システムの導入を決定し、来年度の方向性を確立させ、パソコンを利用した日本語教材のデジタル化に着手した。

5 その他

韓国時事日本語社と文化初級・中級日本語教材の指導説明会をソウルで実施し、韓国内の日本語教員 80 名と交流ができた。(来年度は台湾の大新書局と協力し、台北で実施予定)

## 附属機関

### < 図書館 >

- 1 貴重書画像データベースのウェブ公開（学内・学外）に向けた新システム導入および規模倍増プロジェクトの開始（3ヵ年計画の1年目）
  - 1）新システムを構築し既存データベースにあるコンテンツ（約14,700画像）についてはデータ修正をおこない、新システムへの移行準備を終えた（平成21年4月中に公開予定）。
  - 2）新規追加コンテンツについては対象資料の画像データ（約14,500画像）と検索用テキストデータを作成した（データ検証後、来年度中に搭載予定）。
- 2 各校ポータルサイト、学生メールサービスの情報配信の開始
  - 1）延滞本の督促および予約資料に関する情報のメール配信を開始したが、各校の学生ポータルサイト利用状況が揃わないため、旧連絡方法との併用となっている。
- 3 年間開館日数の増加および時間延長  
開館日数を前年比で新都心館5日増加、小平館は4日増加した。また、新都心館は前期試験期（7月）と論文提出時期（11月10日～1月末）に限り平日開館時間を30分延長して7時半までとした。
- 4 図書館利用のガイダンス  
新都心館では、入学時オリエンテーションに加え、授業の一環としての図書館利用ガイダンスを開始した。
- 5 ファッション研究機構への協力および「文化学園リポジトリ」システム立ち上げ
  - 1）ファッション研究機構の設立に伴い、研究用資料（図書館推薦資料・研究者希望資料）の調達および資料研究用備品・機材等の充実に協力。
  - 2）研究機構の研究成果および文化学園内において生成される学術成果物の世界に向けた公開ウェブサイト「文化学園リポジトリ」のシステムを研究機構に代わり立ち上げ（3月）コンテンツの登録を開始した。
- 6 学園教育部門ほか他部署特別事業への支援・協力
  - 1）文化学園服飾博物館と「フランス・モード 18世紀から現代まで」を共催し、所蔵資料多数を展示した（4月17日～6月14日）。
  - 2）文化祭行事の一環として、図書館内にて特別展示「錦絵展示」を実施した。
  - 3）文化外国語専門学校通訳・翻訳コース1年次在席の学生1名をインターンシップ生として受け入。（2月2日より2週間）。

## < 服飾博物館 >

### 1 日仏交流 150 周年記念事業展

4月に博物館において「フランス・モード 18 世紀から現代まで」展を行い、5月にフランス パリ市バガテル公園内トリアノン館において「バガテルきもの展 - 花・草・木の文様 - 」展を開催した。期間中 10 万人余の入場者を得て、好評を博した。

### 2 資料収集

資料数総計 230 件（購入 62 件、寄贈 168 件）

### 3 展 示

#### 1 ) 館内展示

会 期	タイトル	出品数
4.17 - 6.14	フランス・モード 18 世紀から現代まで	80 点
7.4 - 9.20	中国の服飾 清朝末期から近代まで	147 点
10.10 - 12.22	世界の藍	143 点
9.1.30 - 3.14	おひなさまと装束・調度	108 点

#### 2 ) 館外展示

バガテル公園 トリアノン館及びギャラリー（フランス パリ）

「バガテルきもの展 - 花・草・木の文様 - 」

5月16日 ~ 7月15日 出品資料 67 点

F 館 4 階 コスチュームギャラリー

「シルクロードの彩り - 中央アジアの民族衣装 - 」

4月18日 ~ 25日 出品資料 46 点

F 館 4 階 工芸室

「古代文明の造形」

常設 ~ 6月30日 出品資料 74 点

北竜湖資料館

4月23日 ~ 10月31日

1 階「郷土玩具」 出品資料 343 点

2 階「ロシアと周辺諸国の民芸」 出品資料 49 点

#### 3 ) 展示協力

「ポーラ・コレクション 美を競う - マリー=アントワネット、大奥の粧いと香り」主催：ふくやま美術館

6月16日 ~ 7月15日 貸出資料 4 点

「サンパウロ ファッションウィーク」

会場：サンパウロ ビエンナール会場（ブラジル）

6月17日 ~ 23日 貸出資料 3 点

「明治天皇と維新の群像」

主催：明治神宮 文化館宝物展示室

10月4日～11月24日 貸出資料 1点

「怒涛の幕末維新」

主催：憲政記念館 11月6日～28日 貸出資料 1点

「刺繍でつづる母の愛 - 少数民族の刺繍工芸」

主催：日中友好会館 '09.1月23日～2月22日 資料調査と展示協力

#### 4 ギャラリートークの開催

- 1) 一般観覧者向 4展示に合わせ 各2回実施
- 2) 学内教職員向 3展示に合わせ 各1回実施
- 3) 一般グループ見学者向 年間を通じて約30件

#### 5 図録、リーフレット等の製作、販売

#### 6 博物館資料のデジタル画像の整理、更新 約2,800カット

#### 7 文化女子大学学芸員課程実習

##### 1) 実習生の受入

服装学部 33名 造形学部 42名 現代文化学部 23名(年間を通じて各人5日)

##### 2) 服装学部、造形学部の博物館実習講義

「西洋服飾資料の取扱いと髪型実習」「着物の取扱い」「博物館資料の受入れ」等

#### 8 その他の講座、実習等

- 1) 文化女子大学服装学研究所主催公開講座での展示解説(2回)
- 2) 文化女子大学服装学部服装社会学科4年「民族服飾B」(15回)
- 3) 文化女子大学服装学部服装社会学科3年「民族服飾A」での所蔵資料の着せ付け実演(1回)
- 4) 文化服装学院アパレルデザイン科2年特別講義「民族服について」(3回)
- 5) 文化ファッション大学院大学授業「日本伝統服飾概論」(15回)

#### 9 資料整理、資料撮影、フィルム貸出等

## <ファッションリソースセンター>

### 事業計画

#### 1 ファッションリソースクラブの会員制推進

法人会員2社、正会員1名、会友2名。

#### 2 産学交流事業の推進

##### 1) テキスタイル産地企業・デザイナー等との体験学習(ワークショップ)

デザイナーと一緒に作るニット小物等、計5回実施。参加者300名

## 2) テキスタイル産地との産学連携

浜松商工会議所との協同プロジェクト・浜松綿織物活用による展示受注会。

2月「Studio oeuf」展 参加学生ブランド9、入場者300名

## 3) その他の産学交流事業

5月 三菱レイヨンテキスタイル「ソアロン」展 入場者800名

同・セミナー 参加者300名、同・デザインコンテスト 応募数900点

ブラザー工業株式会社「ブラザーコミュニケーションスペース」(名古屋)において装苑賞(第78?82回)受賞作品展。4回の入替えによる一年間常設展示。

入場者15000名

## 4) デザイナー作品展等

A.D展等を計8回実施。入場者及び参加者15,200名

## 3 業務・運営

### 学校教育支援

学校教育支援(一般見学・ガイダンス・利用)体制の継続、強化

一般見学者3100名、利用説明会3000名

### テキスタイル資料室

素材資料収集・充実化を図り播州産地等素材20点、機能性素材25点、他15点収集。

テキスタイルデザインソフト4Dbox 学生向け無料研修会を7回実施。参加者140名

### 映像資料室

コレクション画像データベースの更新・拡充し累計データベース数112,000点。

コレクション、教材・音楽・語学、映像資料(DVD、CD)充実化109点収集。

### コスチューム資料室

ファッションショー作品、公開講座作品、コレクション作品などの収集・充実化として移管・購入・寄贈等で42点、116セット収集。

### コスチュームギャラリー展示(F館3F)

07'コンテスト受賞作品&2008 S/Sコレクション展、第82回装苑賞受賞作品展、文化服装学院 MATASUO 産学協同プロジェクト「アール・ド・マリアージュ」賞受賞作品展を実施。入場者7,000名

### 企画室

ファッションリソースセンター運営委員会2回、小委員会2回の開催。

## < 国際交流センター >

### 1 学術的交流及び海外留学プログラム開発・支援

国際交流センターでは、国際的に活躍できる人材の育成を目的とした本学の 2009 年度目標である「グローバルゼーション」の実現化を側面からサポートするため、IFFTI 会員校などとの国際的な連携により、様々な学術・文化交流を積極的に行った。

#### 1) 学術交流

4月、オーストラリア・クイーンズランド州メトロポリタン・サウス・インスティテュート TAFE 大学と共同教育事業に関する提携をした。1979 年創立され、学生数 4 万人をかかえる芸術系の職業専門大学である。ファッション系分野のほか、インテリア・デザインなどの造形分野における留学プログラム、セミナーや共同研究などの学術交流を計画している。

4月、フランス パリの服飾モデリスト養成専門学校 (AICP) のボークレイ校長を招いて、フランスのファッション事情についての特別セミナーを開催。

10月～11月、文化学園の提携校で英国ノッティンガム・トレント大学 (NTU) とのポールスミス奨学金プログラムが始まった。本年は NTU より大学院生 4 名を受け入れ、日本人学生と交流をしながら多くの授業を体験した。

10月シューズデザイナーのジミー・チュー氏によるワークショップを行った。ジミー式の可能性を追求したテクニックがたくさん紹介され、多くの学生に感銘を与えた。

10月アメリカファッションデザイナー協会会長を務め、ドレスブランドで有名なダイアン・フォン・ファステンバーグ女史が「働く女性の新たな役割」と題し、講演。

### 2 留学生交流促進

#### 留学生の交流

6月末から7月末にかけて、夏期日本文化研修プログラムでアジアの提携校 8 校から約 240 名が来校し、ファッション研修を通して学生同士の交流を行った。

6月末から7月末にベトナムコレクションでグランプリを受賞した 2 名の学生が来校し、ファッション系の授業を受けながら、本学の学生と交流した。

日本人学生と留学生との交流の場として「英語カフェ」を始めた。外国人スタッフと日本の文化などについて英語で意見交換を行う。1月から3月にかけて 8 回開催。留学生の交流の場として、様々な文化的セミナーを実施する。

### 3 留学生募集強化

1) 本学園に在籍する留学生数が 2008 年 10 月期で 1,322 名となった。学院への日本人入学者が減少傾向にある中、留学生数は 588 名から 614 名へと増加し、韓国籍留学生数も不況の折にも拘らず 350 名から 357 名と現状維持を保った。2010 年ま

でに 1500 名としたい。

- 2) スリランカ政府との共同ファッション教育事業の具体化を図り、同国からの留学生の受入れを検討した。また、マレーシアのリムコックウイング大学と提携し、次年度の短期研修などを検討。
- 3) 文化服装学院韓国留学生会ソウル4校合同イベント(2009年3月28日)は、ロッセワールドホテルで開催され、高校生・大学生を中心に1,000名あまり来場し、成功裏に終了したが、次年度からは、費用対効果の観点および韓国ファッション業界における広報的な面から、ソウル市 教育庁 との共同事業によるジョイント形式としたい。
- 4) 韓国 ソウル事務所の購入  
10月に韓国内における本学園の国際交流拠点として、直轄のソウル事務所を開設した。本学在籍留学生数1,344名のうち、韓国の学生は644名で約半数を占め、韓国の提携校も11校有し、韓国との交流は活発である。今後、新しい拠点を中心に、グローバル社会が求める国際通用性ある人材育成を促進する。

## < 知財センター >

- 1 特許権、実用新案権、意匠権、商標権の出願相談等、知財に関する相談を受付
  - 1) 「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」が特許第4198152号として特許を取得した。
  - 2) 特願2008-278143「ブリーツ織製品及びその織成方法」を出願した。
  - 3) 特願2008-090732「織物製品及び織成方法」の審査請求を行った。
  - 4) 文化学園(形態機能研究所・購買部)と産総研とのロイヤリティーに関する契約を交わした。
- 2 セミナー、講演会の開催  
文化学園知財センター主催第2回講演会「商品デザインの保護について 国内法を中心に」を11月に開催。学園各校の教職員や学生への啓蒙・普及活動を行った。
- 3 知財センターホームページの更新  
知財センターホームページの更新を行い知財センターの管理する知的財産や設立から今日までの活動状況を公開した。
- 4 その他事務的処理
  - 1) 文化学園所有の特許権の出願審査、出願、更新、保管管理について
  - 2) 文化学園所有の実用新案権、意匠権、商標権の出願、更新、保管管理について
  - 3) 共同出願契約書等の保管管理について
  - 4) 発明対価の算定

## <アカデミックアーカイブセンター>

### 1 開設

平成20年12月に文化学園の附属機関として新設された。「文化学園アカデミックアーカイブセンター」は、「AFP-World Academic Archive」(AFPオンラインデータベース・アカデミック版)の日本国内におけるマーケティングおよび販売活動を担当業務とする。AFP通信の世界的なニュースアーカイブを、日本国内の教育機関にアカデミック価格で提供するオンラインデータベースサービスとして、文化学園とフランスの通信社AFP(Agence France-Presse)との共同プロジェクトとして行う。

### 2 平成20年度においては、平成21年度以降の事業計画を策定した。

1) 利用サービスの開始日を2009年6月1日予定とし、対象ユーザーやその利用契約、販売方法の検討を重ねた。

2) 次年度に予定されている文化学園とAFP通信社の共同プロジェクトの検討

文化ファッション研究機構へのサポートおよびモニタリング等による相互協力  
日本の高等教育機関における海外データベースの導入事例と活用に関する研究。

文化服飾博物館収蔵品の高解像度画像をAFPフォトライブラリーに加え、世界中で閲覧利用可能にする。

「装苑賞公開審査会」をAFP通信東京支社が取材し、パリの本社から世界中に配信する。2010年度よりAFP特別賞などの新設も検討する。

## 共同研究拠点

### <文化ファッション研究機構>

#### 1 平成 20 年度業務計画内

- 1) 文化女子大学が整備した共同研究施設に、共同研究のための設備、及び研究リソースを整備する。

研究者使用備品として、パソコン等を共同研究室 12 名分、研究室 12 名分、会議室 16 名分)を整備した。

研究者使用資料として、叢書・近代日本のデザイン明治編、他 118 冊を整備した。

研究者利用データベースとして、リポジトリ（研究者データベース）、学内データベースのハード周りを構築した。

- 2) 文化ファッション研究機構に機構長他、教員、事務員の人員配置を行う。
- 3) 共同研究の推進については、拠点として重点的に進めるべきプロジェクト研究として、「きもの」文化に関する研究”をテーマに挙げ、特にテーマを定めない一般共同研究としては、服飾文化にかかわる人文学的研究、社会科学研究自然科学的・技術的研究を分野として研究課題公募を行う。

応募課題 40 件からプロジェクト研究“きもの”文化に関する研究”を 3 件採択した。

応募課題 40 件から一般共同研究を 11 件採択した。

「服飾文化にかかわる人文学的研究」7 件、「服飾文化にかかわる社会科学研究」5 件「服飾文化にかかわる自然科学的、技術的研究」2 件 合計 14 件

- 4) これらの拠点活動の広報として、ホームページを立ち上げ、拠点活動の広報、ならびに共同研究課題の公募を行った。

#### 2 その他

- 1) 10 月 服飾文化共同研究拠点キックオフ・シンポジウム「服飾文化研究のグローバルな展開に向けて」を開催した。
- 2) 11 月 シルクシンポジウム「先人の絹技術・文化の学び今に活かす」を日本シルク学会と共催した。
- 3) 1 月 第 3 回「21 世紀の日本のシルク文化を考えるシンポジウム -日本の絹と洋装-」を大日本蚕糸会と共催した。
- 4) 2 月 招待研究会「パリ第一大学におけるファッションとデザイン研究の振興と組織化」を開催した。

## 収益事業

### <文化出版局>

- 1 平成 20 年度の出版業界を取り巻く環境は厳しく、売り上げの多くを占める販売・広告部門での売り上げ拡大は困難と予測し、編集原価を抑えることで利益改善をはかろうとしたが、出版不況は予想以上に厳しく、予算設定した売り上げを確保できず想定以上の大きな赤字を出す結果となった。
- 2 販売部門においては有名雑誌の休刊が多く、各社の看板雑誌といわれたものが目立った。雑誌業界は 10 年来減少ペースが続いているが平成 20 年はその中でも著しく不況の年であり、いまだ好転の兆しがみられない。局発行の雑誌は各誌前年実績を上回れず前年実績比 90.4%、予算達成率 82.2%と苦戦した。従来「ミセス」等の雑誌の販売を売り支えていた地方の中小書店の廃業が多く、影響を受けている。

書籍は新刊 106 点を発行計画としたが最終的に 93 点発行。期の途中で返品増などの市場悪化もあり、重版に結びつきそうにない企画は点数にこだわらず出版を見合わせた。書籍売上の前年比は 86.1%で 2 年続けて大きく実績を落としており、廃業する中小書店の配本を紀伊國屋などのナショナルチェーン店やアマゾンなどのネット書店でカバーする展開を行っているが、難しいのが実状である。

雑誌・書籍・特品を合わせた販売合計売り上げの予算達成率 81.0%となる。また、書籍在庫を、19 年度末の 173 万部から 163 万部へと 10 万部の削減をした。
- 3 広告部門の売上においては、前年実績比 79.6%、予算達成率 76.1%に終わった。「ミセス」「ハイファッション」の落ち込みが大きく、全体の数字を押し下げる要因となっている。平成 20 年 9 月以降の経済破綻で広告環境が急激に悪化し、外資系ブランドが宣伝予算を大きく削減し、それが集稿減少となってこの 2 誌にストレートに反映された。広告会社とのパイプ強化より編集部とも連携の上、直接スポンサーとの関係強化に努めたが、回復できない状態となっている。
- 4 雑誌編集諸経費の見直しとして、編集部員に徹底した原価管理意識を持って編集取材・制作を行うことを目標とし、期の途中でのページ数減にもつながり、「ミセス」「銀花」を除き、それぞれ予算計上より減ページとして原価を下げた。

書籍編集部門においては外部編集プロダクションの活用で新しい路線を模索し、4 点を発行したが大きく売り上げに寄与するにはいたらなかった。ただこのことは今後も積極的に推し進めていく。
- 5 通販課は体制を一新し、5 月に受注・物流に関してシステムを変更し、またコールセンター機能を外部委託するなど、業務の合理化と経費削減をはかった。通販の収益が雑誌よりカタログに 8 割以上を依存していることから、初めて 3 回発行し厳しい経済状況下で前年比 99.3%の売り上げを確保したが、予算達成には 76.8%と及

ばなかった。

- 6 デジタルメディア事業の展開についてはほかの大手出版社が率先して WEB のビジネスモデルを展開している状況をふまえ、将来に向け紙媒体以外での収入源の確保のため平成 19 年度よりデジタル開発室の準備業務を開始し、平成 20 年度より収入を予算化したが、軌道に乗れず予算に対しはるかに及ばず、コンセプトの建て直し、商品の見直しなど課題は多い。
- 7 最後に総論として
  - 1) 雑誌編集内容の刷新によって広告売上増と部数拡大を目指す。
  - 2) 雑誌売上原価(編集経費・販売・広告)及び管理経費の削減。
  - 3) 書籍在庫部数の削減により書籍販売の利益率を改善する。
  - 4) 団塊世代の定年退職を契機に人件費を削減し、出版局をミニマムな組織として再生する。

以上の目標を持って売上利益率の段階的改善を目指しスタートしたが上記 1) から 3) の経費削減は十分ならずとも方向性は守れたが、1) については広告売上増、部数拡大がはかれず、逆に大幅ダウンしたため赤字が増した 1 年になってしまった。

## <文化事業局>

### 1 購買部

- 1) 学生数の減少及び仕入価格のアップ等のマイナスの条件に対して、新たな発想で新規得意先の開拓に努め、教材以外の各種記念品等の新たな企画を立案すると共に、購買部ネット販売を推進し、販売促進に取り組んだが、年度予算は若干ながら達成出来なかった。
- 2) 年間のイベントを意識した販売に取り組み、教材以外の販売で売上の確保を目指した。最も実績があった企画販売は卒業記念として新たに販売を開始した生花と DPE フォトボックスで、目標を達成する事ができた。
- 3) ネット販売に関しては、オリジナル商品を中心に掲載を追加し、洋裁用具以外の新たな商品構成に取り組んだ結果、売上増につながった。

### 2 ビル・研修・旅行部

#### 1) ビル事業

20 年度は空室も埋まり、賃料改定などテナントは好調に推移をした。この景気悪化の影響で、都心のオフィスビル賃料も不安定な状況なので、各関連部門とも連携を深め収益の確保に努めた。

#### 2) 研修・旅行事業

集客 3 ヶ年計画の 2 年目となるが文化北竜館、文化軽井沢山荘とも目標宿泊数

には達することができなかった。しかし文化軽井沢山荘は他大学のゼミ合宿の問合せや予約が多く入るなど今後の方向性も見えている。また宿泊料金の改定を行い、収益向上と業務改善にさらに努める。

旅行部門は若者の旅行離れや関心の薄さ、燃油サーチャージの高騰などで目標予算を達成することができなかった。関係部門と企画面などの見直しを行う。

## 学園本部

### < 学園総務本部 >

#### 総務部

- 1 文化女子大学室蘭短期大学の閉校及び附属幼稚園の継続に関する事項  
室蘭短期大学は平成 20 年度の在学生の卒業をもって閉校とし、それに伴う総務関係業務を行った。存続する附属幼稚園は園名変更の届出を行い、新たな園名を文化女子大学附属幼稚園として次年度の募集体制を整えた。また、閉校に伴う室蘭市への土地・建物の所有権移転についての調整業務を行った。
- 2 新都心キャンパスにおける危機管理体制の強化  
防犯ブザー設置を検討したが、設置箇所を再検討することとして、平成 21 年度に継続して検討していく。
- 3 小平キャンパスの防犯カメラ設置  
キャンパスの入口での入校者の監視を行うため、防犯カメラを 2 台設置し、警備体制を強化した。
- 4 学園の歴史資料のアーカイブ化  
資料の収集、整理を開始した。
- 5 評議員の改選に関する業務  
任期満了による評議員の改選に伴い、評議員選任のための候補者推薦を 6 月に行った。この推薦結果をもとに理事会にて第 20 期評議員が選任され公示した。
- 6 労務関係等の規程の改定を行う。

#### 人事厚生部

- 1 平成 21 年度採用〔身分変更含む〕  
教職員 20 名、事務職員 20 名
- 2 定年後再雇用制度による雇用（3 年目）  
対象者 27 名のうち教職員 5 名、事務職員 3 名を再雇用。
- 3 身体障害者雇用促進法による法定雇用率を達成するための採用を行う。
- 4 就業規程 / 給与規程の改定及び整備を検討。  
改定について進行中である。
- 5 人事 / 給与等のシステムの再構築の実施について検討。  
E D P 室システムのオープン化によるソフトの選択とカスタマイズ化、データの新システム移行と本番稼働へ向け検討。引き続き学園の状況により検討して行く。

## 施設部

平成20年度の教育環境整備として、教育施設の保全計画とセキュリティ設備の充実に重点を置き、加えてアメニティの改善と省エネルギーの推進を目標に事業計画を実施した。

### 1 建物及び付属設備の保全計画

- 1) 新都心及び小平キャンパスの空調機について、老朽化に伴う整備工事。
- 2) ABC館熱源用冷温水発生器の9年整備計画で3年目を終了。
- 3) F館及び、ふじ学生会館の屋上防水工事を完了。
- 4) 附属幼稚園園庭の老朽化に伴う整備工事を完了。

### 2 キャンパス内における学生動線の安全確保

床タイルの補修とキャンパス内の案内表示の設置等を行う。

### 3 キャンパス環境美化対策

通年にわたるクリーンキャンペーンの実施等

### 4 セキュリティ対策

ITV監視装置を小平キャンパスに導入し、学生生活の安全確保が充実した。次年度も緊急警報装置の導入でさらなる安全確保を充実させる予定です。

### 5 省エネルギー対策

空調機等の省エネルギー制御対策工事をするとともに、節電の推奨に努める。

### 6 学生寮について

- 1) 寮の管理、整備を行う。7月に小平第二国際学生会館を取得し、主に文化女子大学別科の留学生が使用する。
- 2) 各学生寮の入寮準備整備として3月末に完了。

## < 学園経理本部 >

### 経理部 財務部

回復の兆しが見えない経済状況と少子高齢化の影響により、厳しい財務状況の中、効率良い業務を目指し経理業務を遂行した。

- 1 平成 19 年度決算書を作成し、平成 20 年 5 月 28 日の理事会、評議員会に諮り、公認会計士の監査を受け各所轄官庁へ提出した。
- 2 平成 21 年度「学校会計」及び「収益事業会計」の予算書を作成し、平成 21 年 2 月 26 日の評議員会、理事会に諮る。
- 3 平成 20 年度決算書作成業務を進めた。なお、室蘭短期大学の閉校に伴う関連業務を遂行した。

### EDP 室

#### 1 業務・運営計画

平成 20 年度については、教育・事務系ネットワーク、及び、メインフレーム各基幹業務システムの維持・管理・運営及び学内業務のサポートを行った。

- 1) 事務系ネットワーク機器、各種サーバーの経年劣化による新機能新機種取替更新。
- 2) 電子メール・ネットワーク（個人情報保護関連含む）セキュリティ強化対策。
- 3) 学園 IT 推進化計画による実施済みシステムの検証及び有効活用促進。

大学ポータルサイトの本格運用実施サポート及び教育系ネットワークの維持管理。

- 4) 大学システム再構築（オープン化）研究・検討を継続し学内データ WEB 公開に向けて映像資料室のデータ整備。
- 5) メインフレーム各基幹業務システムのオープン化について検討開始。
- 6) 共同研究機構の発足による文化学園リポジトリデータベースの構築。

文化学園リポジトリデータベースの構築を、研究機構・図書館とともに、WEB 公開を開始した。

## < 監査室 >

#### 1 監査室の調査・報告

大学、学院、外語の学生募集費（過去 5 年間）、学納金処理（学生異動含む）の調査及び報告を行う。

#### 2 監事監査の補助

- 1) 出版局 雑誌・書籍編集部、販売部、広告部

- 2) 大学 教務部、就職相談室
- 3) 学院 教務部、就職指導室、毒物・薬物の取扱
- 4) 研修施設 軽井沢山荘、北竜館
- 5) 本部 総務部、E D P室
- 3 監査室監査
  - 1) 大学 科学研究費補助金(16件)
  - 2) 文化ファッション研究機構(服飾文化共同研究拠点)
  - 3) 学院 専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業、  
専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン
- 4 その他
  - 「学校法人文化学園公益通報等に関する規程」のうちハラスメント規程を改定

### < 開発準備室 >

- 1 「渋谷ファッション・デザインフォーラム(仮称)」に関して報告
  - 1) 渋谷区役所関係各部署と折衝し、現在、覚書等、正式な契約に向けて協議中。
  - 2) 施設運営に関する起案を作制中。
- 2 再開発に関して
  - 1) 再開発事業に関する建築計画の起案と学園内、理事会等で提示。
  - 2) 再開発事業に関し、渋谷区各部署及び東京都関係部署と協議し基本的な理解を得る。

### 3 財務の概要

平成 20 年度の事業計画に基づいて実施された主な事業内容は次のとおり。

- 1) グローバリゼーションへ向けての活動は、「日・仏交流 150 周年記念展」としての「バガテル着物展」をパリにおいて行った。(4,000 万円)
- 2) 文部科学省委託研究「人文科学及び社会科学における共同研究拠点の整備」を受け文化学園は服飾文化研究の拠点校となり研究がスタートした。(基盤整備の建物・備品で 1 億 600 万円、消費支出で 1 億 1,300 万円)
- 3) 文化服装学院広島校の開校は順調なスタートで今後が期待される。(初年度経費は消費支出と備品で 1 億 3,000 万円)

#### 決算概要

##### 1 資金収支計算書

###### 1) 収入の部

学生生徒等納付金収入は 104 億 8,300 万円となった。学生数は 10,438 名で、平成 19 年度比では学園全体で 462 名減のため、6 億 1,300 万円の減となった。手数料収入は 1 億 3,200 万円で入学検定料が大部分を占めている。補助金収入は 8 億 3,500 万円となり、内 6 億 7,600 万円が国庫経常費補助金である。事業収入の 9 億 5,200 万円は、収益事業からの 5 億円の寄付金とオープンカレッジを中心とする公開講座等の受講料や学生寮の寮費収入、外に受託研究、受託事業等、教育・研究を補完する重要な収入である。雑収入は 9 億 2,300 万円となるが、内 5 億 9,900 万円は退職金財団交付金収入である。

###### 2) 支出の部

人件費支出は退職金関連支出が 6 億 1,400 万円含まれているが、全体では 76 億 9,500 万円となった。教育研究経費支出の 22 億 5,700 万円は教育・研究に直接要した費用となる。また教育・研究を間接的に支援する為の学校経営に要する管理経費支出は 10 億 3,700 万円で、学校経営上の管理的施設・設備の維持、管理費、学生の募集経費等が計上されている。その他では、借入金の返済支出として 9 億 5,400 万円を計上しているが、その内 8 億 9,300 万円は日本私立学校振興・共済事業団からの借入に対する返済である。施設関係支出は 5 億 500 万円で小平第 2 国際学生会館及びソウル事務所建物の取得、研究機構関係施設の整備等である。設備関係支出の 3 億 6,800 万円は、新都心、小平キャンパスの機器備品等の購入したもの。次年度繰越支払資金は 63 億 200 万円となり、前年度より 9 億 3,200 万円減少した。

##### 2 消費収支計算書

消費収入は、帰属収入 135 億 1,600 万円から基本金組入額 18 億 300 万円を控除した金額で、117 億 1,300 万円となった。消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費で、本年度は 129 億 4,100 万円となる。翌年度繰越消費支出超過額は 136 億 2,200 万円となり、基本金組入前消費収支差額では 5 億 7,500 万円である。

##### 3 収益事業部門

収益事業部門は、文化出版局、文化事業局(購買部、ビル・研修・旅行部)の収益と費用を表したもので、損益収入は、文化出版局の書籍・雑誌等の売上や広告料収入、購買部の商品売上等が 59 億 6,700 万円、ビル管理部のビル賃貸料収入等が 29 億 6,900 万円で、その他の収入が 2,900 万円あり収入合計が 89 億 6,500 万円となる。損益支出は、営業費用として売上原価が 55 億 8,800 万円、販売費及び営業費として 24 億 4,200 円、その他の支出として 7 億 7,300 万円を計上しているが、この中には学校会計への寄付金 5 億円と借入金利息 2 億 7,000 万円、が含まれる、その結果、収益事業部門は税引前利益として 1 億 6,100 万円を計上した。なお、平成 20 年度決算で収益事業累積欠損金を使い終わり、法人税を 9,900 万円計上し最終当期利益は 6,200 万円となる。

## 平成20年度 資金収支計算主要科目決算比較表

学校部門

(単位:百万円)

資金収入	20年度決算	19年度決算	差異
前年度繰越支払資金	7,234	6,883	351
当年度資金収入合計	13,113	16,154	3,041
学生生徒等納付金収入	10,483	11,095	612
手数料収入	132	142	10
寄付金収入	25	3	22
補助金収入	835	844	9
資産運用収入	159	135	24
資産売却収入	14	2,207	2,193
事業収入	952	895	57
雑収入	923	857	66
借入金等収入	0	400	400
前受金収入	3,845	4,294	449
その他の収入	778	651	127
資金収入調整勘定	5,033	5,371	338
期末未収入金	739	652	87
前期末前受金	4,294	4,718	424
<b>資金収入合計</b>	<b>20,346</b>	<b>23,038</b>	<b>2,692</b>

資金支出	20年度決算	19年度決算	差異
当年度資金支出合計	14,044	15,803	1,759
次年度繰越支払資金	6,302	7,234	932
人件費支出	7,695	7,723	28
教育研究経費支出	2,257	2,233	24
管理経費支出	1,037	1,116	79
借入金等利息支出	234	261	27
借入金等返済支出	954	1,447	493
施設関係支出	505	49	456
設備関係支出	368	224	144
資産運用支出	804	2,701	1,897
その他の支出	480	396	84
資金支出調整勘定	289	345	56
期末未払金	289	345	56
<b>資金支出合計</b>	<b>20,346</b>	<b>23,038</b>	<b>2,692</b>

上記のそれぞれの表の金額は、百万円未満を四捨五入している為  
合計などの数値が計算上一致しない場合がある。

## 平成20年度 消費収支・損益計算書決算比較表

学校部門

(単位:百万円)

消費収入	20年度決算	19年度決算	差額
学生生徒等納付金	10,483	11,095	612
手数料	132	142	10
寄付金	33	10	23
補助金	835	844	9
資産運用収入	159	135	24
資産売却差額	0	93	93
事業収入	952	895	57
雑収入	923	857	66
帰属収入合計	13,516	14,072	556
基本金組入額合計	1,803	500	1,303
収入合計	11,713	13,572	1,859

消費支出	20年度決算	19年度決算	差額
人件費	7,492	7,430	62
教育研究経費	3,638	3,620	18
管理経費	1,442	1,520	78
借入金等利息	234	261	27
その他の支出	135	883	748
支出合計	12,941	13,714	773
当年度消費支出超過額	1,228	142	1,086

収益事業部門

(単位:百万円)

損益収入	20年度決算	19年度決算	差額
売上代金	5,967	6,695	728
賃貸料収入	2,969	2,986	17
その他の収入	29	26	3
収入合計	8,965	9,707	742

損益支出	20年度決算	19年度決算	差額
借入金等利息	270	299	29
売上原価	5,588	5,904	316
販売費	870	895	25
営業費	1,573	1,808	235
その他の支出	603	513	90
支出合計	8,904	9,419	515
収支差額	62	288	226

上記のそれぞれの表の金額は、百万円未満を四捨五入している為、合計などの数値が計算上一致しない場合がある。